

# 日本における メディカルツーリズムの一考察

提出日

2014年1月27日

中央大学商学部

会計学科 11C2125003C 大南澄華

会計学科 11C2123012J 山下綾香

## 日本におけるメディカルツーリズムの一考察

中央大学 商学部 斎藤正武ゼミ

会計学科 11C2125003C 大南澄華

会計学科 11C2123012J 山下綾香

韓国、シンガポール、タイ等のアジアを中心として、近年注目されている【医療観光(メディカルツーリズム)】。この「医療観光」とは、安い手術代や投薬費、また自国で受けることのできない高度な医療技術を求めて、他国へ医療目的に渡航するという意味を持つ。自国では不可能または高価、求めている結果が得られない医療を受けることを求めて、先進工業国の患者や途上国の富裕層患者などが他国へ渡航するものが中心となっている。日本においてもアベノミクスの成長戦略の一つとして医療観光の推進がなされているにも関わらず、日本では「医療観光」という言葉はあまり普及していない。

一方、アジア各国の医療観光の受け入れ数は年間約 3000 万人となっており、タイが半数を占め、続いてシンガポール、マレーシア、韓国が年々推移を伸ばしている。中でも、韓国は、観光地の豊富さ・医療技術とサービス水準が高い・人口大国または高所得者が多い国が近くにある・国が国策として動いているなどで、日本と類似していることが多いと考えられる。

日本での医療観光事業には、外務省の認可する身元保証機関（登録医療コーディネータ等）のリストに登録されている医療コーディネータ機関があり、外国人患者のサポートとして医療施設との調整や検査結果・報告書の通訳などを行い、外国人受け入れ病院のサポートとして人材の確保・教育などを行っている。その役割から、医療観光事業が発展するには医療コーディネータ機関が重要であると考えた。

このような背景のもとで、本研究の目的は、日本において、国策の一つとして取り上げているにも関わらず、普及していない医療観光が「今後は発展する」「医療観光を流行させるためには医療コーディネータ機関の役割が重要」と仮説を立て、日本の医療観光の現状を医療コーディネータ機関に取材・アンケートを行い把握し、韓国の医療観光の現状を医療コーディネータ機関兼病院に取材を行うことで日本と比較し検証を行った。

その結果、日本にはない韓国全体のチャレンジ精神や教育環境、さらには病院の根本的な考え方に差があった。日本でも韓国のように発展する可能性は多いにあるが、それは部分的なものであり、国を代表する産業に発展するにはまだ相当の時間がかかると結論づけられる。今後の課題としては、日本における病院の考え方を深く考察し、コーディネータ機関との連携について議論する必要がある。